

主題	チームケアで褥瘡を治す・予防する
副題	栄養ケアと創部処置、シーティングの模索

褥瘡ケア	栄養
------	----

研究期間	20ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム ニューフジホーム
------	------	-----	--------------------

発表者：真野 学 ・ 細野 智子

アドバイザー：田口 恵子（介護員）

共同研究者：・竹内千鶴子（看護師）・市川あやの（栄養士）・長山高行（機能訓練指導員）

電 話	042-544-5291	メール	newfujii@douen.jp
FAX	042-546-1729	URL	http://www.d-nfh.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都多摩西部に位置した100人定員の特別養護老人ホームです。「持ち上げない介護」や、「タクティールケア」といった新しいケアを取り入れ、丁寧でやさしい、寄り添う介護を行っています。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

当ホームでは、残念ながら褥瘡のある方が数名いらっしゃり、いかにして治していくかが課題となっていた。その中でも、平成23年9月から褥瘡ができてしまったK氏は、統合失調症の既往もあり、安静にしていることが難しかったことから、急激に重篤化してしまう。私たちはK氏の褥瘡を何とか治療したいと思い、他セクションと連携しケアを模索していった。その中で見つかった課題は

- ・低栄養(アルブミン2.9)
- ・創部の処置の方法
- ・車いす上でのポジショニング
- ・ベッド上でのポジショニング
- ・日常生活の過ごし方

以上が挙げられた。

これらを改善するため、提携病院の外科ドクターの助言をもとに取り組んでいった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

この取り組みの目的は、K氏をはじめとする利用者の褥瘡を完治することである。

そして、今後は褥瘡を予防するため、各部署が連携してケアに当たることを目指す。

○栄養士

栄養補助食品による、低栄養の改善及び、微量栄養素（鉄・亜鉛・葉酸）の摂取増量により、皮膚の再生を促進する。

○看護師（診療）及び外科 Dr.

創部の処置の管理。深さ、大きさを計測し、改善がみられなければ、都度処置方法を変えていく。

○機能訓練指導員

創部にかかる圧を軽減するよう、クッションを改善。車椅子上での適切な体位・角度を指示する。ベッド上でのポジショニング、エアマットの使用により、創部への負荷を軽減していく。

《3. 具体的な取り組みの内容》

○対象者 K氏 男性 79歳

既往歴) 統合失調症・貧血・不整脈・第八腰椎骨折による下半身麻痺・右鼠径ヘルニア

○経過観察の手段として

- ・創部の深さ・大きさの計測
- ・血液検査によるアルブミン値等の測定

○診療による処置の変更

スティックシュガー＋水切りペット用シート

フィブラストスプレー

ヨードホルム

○介護員・栄養士による取組

補食の検討・提供

○機能訓練指導員による取組

車いす上のシーティング・ポジショニング

褥瘡の発生度合に合わせたクッションの選定

- ・ロホクッション
- ・ジェルクッション
- ・低反発クッション

○月1回の褥瘡会議

○ベッド上での時間を安心して過ごせるよう、

コミュニケーションを図る

《4. 取り組みの結果と考察》

K氏は体幹を保持する筋力の低下から、離床時の転落を回避するためチルト式車椅子を使用していた。その結果として、低栄養といった要因が重なり褥瘡の進行を早めてしまった。

統合失調症による情緒面の不安定さが、ベッド上での安静臥床を難しくさせ、完治までに時間がかかってしまったが、平成25年5月に褥瘡は完治した。

褥瘡治癒の為に必要な要因である低栄養状態の改善と、鉄や亜鉛をはじめとする微量栄養素が皮膚の再生に有効に作用することを発見できたことは、これからの褥瘡ケアを向上させることに繋がった。

《5. まとめ、結論》

今回の取り組みは介護職員と栄養士、診療の連携による食事療法が、医療的な治療効果に結びついていった。また、機能訓練指導員が本人の状態にあったクッションを提供し、正しいポジショニングで座位を保つことで、褥瘡の治癒・再発防止につながっている。

介護職員のK氏へのメンタル面への働きかけは、情緒の安定へと繋がり、治療に協力していただけるようになった。

褥瘡予防には、仙骨部など同じ部位に長時間負荷をかけないようにすることが重要であるが、それ以上に床ずれの痛みや、同じ姿勢で過ごす辛さを理解することが、何よりも大切であることを学んだ取り組みとなった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

褥瘡学会のホームページ

《8. 提案と発信》

褥瘡に限らず、他セクションと協同で問題解決に取り組むことで、様々なアイデアが出てきた。専門知識をもった職員から、いかにして情報やアイデアを引き出しに行くか、それを他セクションと連携するための仲立ちをすることも、介護職の大切な役割だと考える。

【メモ欄】